

「パ・パ活アイドルの末路」

いまどき、地下アイドルの活動は厳しい。
チケットの売り上げ、グッズの販売、支援サイトへの課金…。
いずれもアイドル個人が背負うには大きい負担ばかりだ。
そこにポンサーの存在が現れたら、拒否できるだろうか？
たとえそれが、少女が体験したことのないような、
ドス黒く淫靡で、危険な世界の入り口だとしても…。

（本文は、著者による小説の一部です。）

ほ、ほんとうに支援していただきなんですか？

ありがとうございます！

実はチケットとグッズに売り上げノルマがあり、
今週中に達成できないとやバインです、私。
助かったあ……これでアイドルを続けられます。

あの、私、いったいなにをすれば……？
え、その代わり……ですか？
……はい。この道に進んだんですから、
それについては、覚悟ができてるつもりです。
あなた様を気持ちよくすればいいんですね。
え？ それだけじゃ済まないみたい……。



やあ、やめなよ。

こんなひどい数だなんて聞いてません。
ひきりスボンサー様お一人が相手だと……。

そ、そんな恥ずかしいことを、自分が
皆さん面前で言わなきゃいけないんですか？
「わ、私は活動のために、おっぱいもオマンコも
差し出して、たくさんのおじさんたちに弄ぼれ
て悦ぶ、エッチな変態アイドルです……！」

も、もういいですか？

さんざん私を弄んだから皆さん満足でしょ？
え、「何言っているんだ、これからが本番だぞ」「
これ以上何をあるつもりなんですか。怖い……。

あせせ。新しいおもんきりも、来たる。

また「へぱー、ハーハーハー」とかチュバチュバあるから
びゅー、びゅー、こへぱーぎーめん出しね。
私のおへぱーとおもんきりへぱいぶっかけ、
真っ白で口アロアロでくしゃくしゃにしてね。
「とこで終わる」なん? はいどうれーす。



あはは。毎日たのしいね。犯されるのが好き。